

トンボ 竿の先に

佐伯 仁

日本の古称「あきつしま」。「あきつ」とはトンボの意。つまりトンボが群れ飛ぶ国が日本。

トンボは田の神、収穫時には湧くように飛ぶ。その姿は銅鐸に鹿狩りの絵とともに描かれている。

トンボと収穫との結びつきは秋のアキアカネに顕著。アキ（秋）、アカネ（茜）の根の赤い色。

赤は生命の色。神聖な色。人々は稲穂が育つ力に神の恵みをみたのだろう。

色同様、霊力を信じた心はアキアカネを乾燥させ、漢方の強壯剤へ。さらに害虫を駆除する「益虫」としてのアキアカネは捕えたらバチがあたるといふ俗信も生んでいる。

かつて我が国は虫の国。春は蝶、夏は蝉、夜は蛍など四季の使者だった。鳴く虫の声も季節の移り変わりを伝え、暮らしの楽しみだったのに、最近ではトンボの生息地もへり、保護の手がさしのべられている。

四国の四万十市にある「トンボ自然公園」は人々に親しまれていて、ここではムカシトンボや稀種のネアカヨシヤンマなどが観られる。

トンボの句で印象深いのはヨコハマ三溪園の池の汀で詠んだ句。

とどまればあたりにふゆる蜻蛉かな 中村汀女



中村汀女

熊本県熊本市上江津湖畔にある文学碑



アキアカネ



ムカシトンボ



ネアカヨシヤンマ